

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	介護者慰労短期入所事業	会計	一般会計	事業No.	191	施策順No.	35-002
		事業種別	政策・重点	予算科目	3-1-4-14-7		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり			課等名	介護高齢課		
施策	35 高齢者福祉の推進			事業期間	開始	18	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	・要介護者:要介護3、4、5に認定された方を在宅で介護している介護者。・重度障害児者:障害程度区分4、5、6に認定された方、障害児福祉手当受給者で障害福祉サービス受給者の方を在宅で介護している介護者						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		要介護に認定された方で在宅で介護をうけている数。	1477	1590	1645	1645	1700	
		在宅で介護を受けている重度障害児者		76	79	90	100	
意図	要介護に認定された方と重度障害児者を在宅で介護している介護者を慰労する							
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	利用率 利用者実数/対象者数×100	11	12	10	11	11	13	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	この事業により、在宅介護者の負担軽減を図ることができた。今後も引き続き取り組む必要がある。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	短期入所事業実施者に事業内容を伝え、対応可能な事業所を確保する。 介護者を慰労するため一月内に7日以内の短期入所を利用した場合、年間、3回まで請求のあった介護者の方に助成する。 介護者の方は利用施設で短期入所利用時の交通手段についての証明を受け、福祉課・介護高齢課へ請求書を提出する。 高齢者3000円・障害者3500円、送迎タクシー利用は2000円加算。高齢者190人、障害者30人、回数3回、利用率を8割で計算。 高齢3000円*160人*3回*0.8=1152千円 5000円*30人*3回*0.8=360千円 障害3500円*20人*3回*0.8=168千円 5500円*10人*3回*0.8=132千円		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	実施可能な事業所を確保する。 4月初日現在の対象者に対し、4月中旬にサービスの案内の通知と1回分の請求書を発送する。 請求のあった方に対して助成する。 事業者連絡会において事業所に事業目的等周知し、利用率の向上を図る。	1 高齢者対象者数 2 利用回数 3 利用者実数 4 障害者対象者数 5 利用回数 6 利用者実数	1 1,645人 2 386回 3 192人 4 30人 5 0回 6 0人
23年度実施計画	実施可能な事業所を確保する。 4月初日現在の対象者に対し、4月中旬にサービスの案内の通知と1回分の請求書を発送する。 請求のあった方に対して助成する。 事業者連絡会において事業所に事業目的等周知し、利用率の向上を図る。	1 高齢者対象者数 2 利用回数 3 利用者実数 4 障害者対象者数 5 利用回数 6 利用者実数	1 1,645人 2 386回 3 192人 4 30人 5 0回 6 0人

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源		1,812	1,231	1,812		
計 (A)		1,812	1,231	1,812		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間						
人件費計 (B)			0			
トータルコスト A+B			1,231			

4 事業に対する市民や議会の意見

市民の方より介護者を慰労、支援する事業の要望がある。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	施策の成果指標又はムトス指標
	安心して生き生きと暮らせる	安心して暮らせている高齢者の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	在宅で高齢者等を介護する介護者の負担軽減を図ることができた。
	後期に向けた課題	短期入所事業実施者の確保。
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	事業者連絡会において、事業所に事業目的の周知をはかり、利用率向上を図った。
	後期に向けた課題	
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	
	後期に向けた課題	
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	高齢者の介護は介護事業者が担う体制が整備されてきたが、介護者の負担軽減については、介護保険制度利用と併せて行政が取り組む必要がある。
	後期に向けた課題	
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	①短期入所事業実施者が高齢者を受け入れることで、介護者の負担を軽減することができる。 ②事業の制度(仕組み)の周知を図り、受入可能な事業者の拡大に努める。
	後期に向けた課題	
全体を通じて	4年間の振り返り	在宅介護を行う介護者は、休むことなく継続して介護を行っている現状があり、介護が大きな負担となっている。介護者を慰労、支援する事業はこれからも継続して実施していく必要がある。
	後期に向けた課題	介護者の心身の負担軽減を図るためにはリフレッシュする時間が必要であり、身体的にも精神的にも介護負担を軽減させるきめ細かな方策の検討が必要。

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------